



埼玉県立狭山特別支援学校

狭山清陵分校だより

令和6年10月15日

狭山特別支援学校

(狭山清陵分校)

TEL 04-2968-4663



「アイヌ民族の歴史と多文化共生・多文化理解」

教頭 猪熊 孝文

9月の連休中、北海道修学旅行の個人的事前学習のために、映画「シサム」を鑑賞しました。「シサム」とはアイヌ語で「隣人」を意味し、映画では、松前藩の武士としてアイヌとどのように接すればいいのか、和人の武士としての葛藤を描いた作品です。

江戸時代、蝦夷地（北海道のこと）の先住民族「アイヌ」（アイヌ語で「人間」という意味）との独占的交易権を許されていたのは松前藩でした。当時のアイヌ社会は貨幣経済ではなかったため、物々交換で交易は行われました。当時の蝦夷地では米が取れなかったため、アイヌ側の干鮭と、松前藩の米を交換していました。当初（1641～1648年）は鮭100匹に対し米約28kgで交換していましたが、利益を優先した松前藩は1665年ごろには米約11kgで交換するようになり、アイヌの人々にとって不利益な事態になっていました。この不平等な事態にアイヌが立ち上がり、和人（アイヌが本土の人々をこう呼んでいた）に抵抗していきました。シャクシャインの戦い（1669年）はまさに松前藩に対する反乱でした。この戦いではアイヌ側の人口2万に対し、松前藩の人口約1万5000人、そのうち武士は80人余りと、人数的に和人側が不利でしたが、鉄砲を持たないアイヌ（当時のアイヌの武器は毒矢）は圧倒的な火力（鉄砲）を前に松前藩に敗北しました。

これ以降もたびたびアイヌは和人に抵抗しますが最終的に制圧され、明治時代に入り蝦夷地を「北海道」と改称した政府は、アイヌ民族の意向を聞くことなく、強制的に「国民」化を進めました。いわゆる「皇民化」政策の名のもとに、アイヌ民族の伝統文化とその尊厳を否定し、その結果アイヌ文化の衰退（女性の口周りの独特な入れ墨の禁止やアイヌ語の衰退など）が起こり、残念ながらアイヌ民族に対する差別も生まれました。

異なる文化を十分に理解するためには時間がかかります。しかし、同じ土地（日本）に住んでいる者として理解する姿勢を養うことは、これからの多文化・多民族社会では必要なことと考えます。

特別支援学校の役割の一つは「共生社会の実現」であると考えます。「多文化共生・多文化理解」とは少し意味合いが異なるかと思いますが、今回の映画を鑑賞し根底は同じなのではと思いました。

修学旅行2日目に訪れる、「ウポポイ（民族共生象徴空間）」は、アイヌ民族の文化伝承を目的に設置された、北海道白老町にある国立の施設です。生徒にとって、この施設の見学や体験を通して、「隣人」であるアイヌ民族の伝統と文化に触れ、多文化共生・多文化理解について考えるきっかけになってくれれば幸いです。

ここまでお読みいただき、「イヤイライケレ」（どうもありがとう）。

それでは、明日から修学旅行に行ってきます。

(参考図書『いま学ぶ アイヌ民族の歴史（山川出版社）』)

令和6年度 11月行事予定

埼玉県立狭山特別支援学校狭山清陵分校

※予定は変更になる場合があります。

日	曜	部活動	下校時刻	行事等予定
1	金	○	17:00	
2	土			
3	日			文化の日 かかし祭りパン販売
4	月			振替休日
5	火	○	17:00	※パン販売
6	水		15:50	
7	木		15:50	企業向け学校公開
8	金	×	15:50	ロードレース大会(予定)※詳細は未定
9	土			
10	日			
11	月		15:50	事前相談開始(中3、～12月15日)
12	火	○	17:00	※パン販売
13	水		15:50	ロードレース大会予備日 第2回学校運営評議会
14	木			県民の日(学校閉庁日)
15	金	×	15:50	特編(ぴかぴかまつり準備)
16	土		15:50	ぴかぴかまつり(本校文化祭)
17	日			
18	月			振替休日(11/16)
19	火	×	15:50	特体連サッカー大会(埼玉スタ・運動部予定)
20	水		15:50	
21	木		15:50	特体連サッカー大会予備日 ふれあいデー
22	金	○	17:00	
23	土			勤労感謝の日
24	日			
25	月		15:50	現場実習開始(1年)
26	火	○	17:00	
27	水		15:50	⑤⑥夢と豊かな心を育む講演会
28	木		15:50	※パン販売
29	金	○	17:00	
30	土			特体連サッカー大会2日目

【部活動】火・金 ※パン販売12:30～13:15 陵風館多目的ホール